

1番（上原 君代君） おはようございます。

4月の町長選で水谷町長が就任して初めての議会です。式典などでのあいさつは伺っていますが、こうして町長と議員という立場で向き合うのは初めてです。その1番バッターということで緊張していますが、よろしくをお願いします。

今回質問の1点目は保育行政について、2点目は指定管理施設「東員共同福祉施設」の減免について、3点目はエコタウン構想について、伺います。

まず1点目の保育行政について、教育長に伺います。

その1つ目は、今年のいなべ保育園・幼稚園の入園式でご一緒させていただいた時に、少しお話を伺ったのですが、町内6園の保育園のうち、稲部地区だけが0歳児保育の定員枠がないので、ぜひ0歳児のクラスをつくっていただきたいということです。

2つ目は、東日本大震災の原発事故の影響で、夏の節電対策として、企業が就業時間の変更や土日の休みを平日に振りかえたりすることを検討、桑員地区の車関係の企業でも、7月から9月の節電対策として、土日の休みを平日に振りかえると聞いております。当町でも該当者がみえましたら、土曜日保育の延長や日曜日保育の実施を要請します。厚生労働省からもこの件で要請があり、このための財政支援も検討するとの報道があります。

3つ目は、障がい児政策の子育てのびのび教室について、お伺いします。

その中の（イ）として、今まで子育てのびのび教室は、いなべ市と共同運営でしたが、いなべ市が健康子ども部の発達支援課を立ち上げ、独自に運営することで、東員町として独立しました。そのことを機会に、今まで保育園が中心で、持ち回りで運営していたのですが、今回子育て支援センターの事業になったのはどうしてですか。

（ロ）としては、この事業の予算はどれだけですか。

（ハ）として、保育園、特に子育てのびのび教室は福祉行政で、健康福祉課の児童福祉係と関係が深く、療育相談事業などとかかわりが大きいと考えますが、連携をどのようにしていますか。

以上、よろしくをお願いします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） おはようございます。

上原議員の保育行政についての質問にお答えをいたします。

まず、1点目のいなべ保育園の0歳児クラスの設置についてでございますが、議員もご承知のとおり、保育園の入所につきましては、保護者からの入所申し込みをいただいた上で、入所をいただく園を当方で決定させていただいております。基本的には保護者の希望を考慮しながらも、場合によっては希望に添えない場合もございます。その場合は、空きのある園に入所をさせていただいております。しかしな

がら、現在いなべ保育園には0歳児クラスを設置していないことから、兄弟で別々の園に入所していただいているというケースもございます。

今回、要請いただきましたこの件につきましては、教育委員会の課題の一つでございます。今後設置の方向で検討させていただきたいと考えているところでございます。

次に2点目でございますが、東日本大震災による原発事故に関連いたしまして、電力需要のピークを迎える7月から9月にかけて、土曜日・日曜日を勤務日とし、休みを平日に振りかえるという企業がございます。教育委員会にも複数の住民の方から、土曜日・日曜日の保育園の受け入れについて、問い合わせや要望をいただいております。現在、実態把握を行っているところでございます。

私どもが6月1日現在でつかんでおります数は、37名でございます。受け入れ方法等につきましては、今後詰めていく必要はございますが、教育委員会といたしましては、土日の保育を実施していく方向で検討しておりますので、よろしくご理解いただきますようお願いを申し上げます。

最後に3点目の「子育てのびのび教室」についてでございますが、これまで「子育てのびのび教室」は、いなべ市と東員町とが共同して、障がいを有するお子さんと保護者に参加していただき、さまざまな交流や研修を中心に実施してまいりました。

しかし、いなべ市の都合から、昨年度末をもって共同で行う本教室は終了することとなりました。

東員町といたしましては、単独でもこの教室を継続して実施すべきだと考え、支援センターを中心に、各園とも協力しながら、これまでとほぼ同様の内容で実施することといたしているところでございます。

事業予算につきましては、支援センターの経費に含ませておまして、講師謝金や消耗品などで4万円を見込んでおります。

また、健康福祉課との連携につきましては、この「のびのび教室」のみならず、就学指導等におきましても、連携して進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

まず1点目の0歳児保育のことなんですけど、設置の方向で考えてもらっているということで、とてもうれしいです。現状として、それこそ稲部地区だから聞いているんですけど、なかなか今までも希望があっても、役場の窓口まで行くということすら知らなくて、広報を見ただけで定員がないんだ、あんな遠くまではだめだな

ということで、あきらめている人も多かったと聞きますので、本当にうれしいことだと思います。

そして今年特に近所なんですけど、月のうち、5日も6日も6時半を超える交代の勤務で、おばあちゃんが迎えにいかないといかんのやけど、車に乗れないからということで、ベビーカーではとてもみなみ保育園まで行けないしということで、ファミリーサポートセンターを利用することになったんですけど、ファミリーサポートセンターも、今はあるだけいいとはいえ、そういうことでは地域の不公平感があるということで、早急にまたよろしく願いいたします。

2つ目の大震災のための土日保育ですけど、私も37名いるということで、本当にこれだけいるとは思っていなかったのですが、要望は聞いていましたので、これもやってもらえるということで。ただ、保育士さんが土日交代勤務でやってもらえれば一番いいんやけど、臨時の人をもし1人でも欲しいとなると、探すのにも苦労するかなと思いますけど、これもよかったと思いますので、よろしく願いします。

のびのび教室ですけど、私の質問の支援センター、今までやってら保育園の担当だったのが、今回子育て支援センターになりましたので、なぜ子育て支援センターの事業になったのかなということを、ちょっとお伺いしたかったんですけど、よろしく願いします。

議長（山本 陽一郎君） 教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

のびのび教室ですけれども、在園のお子さんが、以前ですと参加をしていただいております。今回も多くはそういうことです。どここの園にと固定するよりは、東員町全体の園を子育て支援という形で、子育て支援センターの人を中心にしながらやっていただいております。先ほども園長さんとの協力というんですか、すべての園長さんもかかわっておりますので、最初にそういう会議を開いて、中心になってやっていただくのは、子育て支援センターが一番いいのではないかな。もちろん、学校教育課の担当者もおりまして、いろんなところで連携を深めながらやっているというところがございます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 在園児ばかりではないので、未就の人もありますので、そこら辺はいいかなと思うんですけど、ただ私が在園の時から、そうやって比べてみますと、やはり障がい児のクラスの普段の子どもたちの様子が、保育園でやったほうが把握しやすいのではないかなということとか、保育士も身近で研修もやりやすいかなというふうに思ったんですけど、それはどうですか。

議長（山本 陽一郎君） 教育長。

教育長（岡野 譲治君） のびのび教室には障がいをお持ちのお子さんと保護者の方、そして保育園の担当として、加配保育として、そのお子さんを見ている保育士の方も参加をしていただいております。そこで親子で一緒に遊んだり、保護者の方の研修をしたり、そして保育士の方の研修もするというので、子育て支援センターを中心にしながらやっているということでございます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

今初めてですので、やってみて2～3年後、そこら辺でまた考えてください。よろしく願います。

予算ですけど、4万円ということで、4万円の中には子どもたちのおもちゃとか、おやつ代や消耗品全部、そして研修も含むということを知っておりますので、通信費から研修の講師料全部ということを知っておりますので、そこら辺では講師料なんかを考えると、保育士の皆さんで系統的な勉強をするとき、半分以上はおやつとか消耗品に使われると思いますけど、研修の点で、この4万円で大丈夫かなということをおもうんですけど、いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 教育長。

教育長（岡野 譲治君） 4万円が安いか高いかというのと、私も判断が難しいのですが、今回の場合には講演会で2万円、消耗品費で2万円という形で、おやつ等は入れておりません。ですから申しわけないんですけども、保護者の皆さんにはお茶を自分で持ってきてくださいと。子どもたちが遊ぶ道具は、園の中でお借りするという形でやっております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

次の連携ということで、連携して進めますと言われたんですけど、のびのび教室で、いつも参加してもらえるのか、関係のある講演とか、関係のある時だけ行ったのでは、普段の保育でやってもらっている様子も保健師さんには見てほしいという思いがあります。のびのび教室はもちろん毎回、そして普段の保育の様子も、保健師さんには見てもらって、親にいろいろ助言もしてほしいなと思いますので、そこら辺、連携という点なんですけど、どうですか。

議長（山本 陽一郎君） 教育長。

教育長（岡野 譲治君） 東員町に住んでいるお子さんでございますので、今後とも連携を深めていきたいなと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番(上原 君代君) 本当によろしく申し上げます。障がい児だけのことでなくて、保育園には3歳未満児で、本当に福祉と密接な関係がありますので、そこら辺では健康福祉課の児童福祉係だけではなくて、教育委員会の係、保育園と幼稚園担当はみえると思いますので、そういう人にも、ただ事務的な係で電話連絡だけではなくて、係の人には、私が在園していた時と同じように、普段から現場を知ってほしいなと思います。チラッと聞いたのですが、一回も来なかったということを知った年もあるんですよ。だからもう少し現場を知ってほしいなと思いますが、そこら辺の指導の面はどうですか。

議長(山本 陽一郎君) 教育長。

教育長(岡野 譲治君) 私どもも現場を見て、現場からいろんな予算要望を上げたり、実態を把握するというのは常々言っております。ただ、学校教育課の人数は4名ですか、課長を入れて5名で、膨大な仕事量がありまして、本当は行きたいのです。毎日ほど行って、子どもたちの姿を見て、いろんなことをしたいんですけども、ほかのいろんな仕事もありますので。ただ、今年は担当者が行きました、一緒にダンスを踊ってきたというようなお話を聞きましたので、行っていると思います。私も報告を受けております。

以上でございます。

議長(山本 陽一郎君) 上原議員。

1番(上原 君代君) ありがとうございます。

次に移らせていただきます。

2点目の指定管理施設「東員共同福祉施設」の減免について、伺います。

今年度から東員共同福祉施設の減免制度が適用されないと聞きました。高齢者や学生、児童関係など、影響が大きく、また文化会館や福祉センターなどと同じ東員町の施設でありながら、片方は減免が受けられ、片方は受けられないというのは理不尽だと思いますが、どうにかならないでしょうか。よろしく申し上げます。

議長(山本 陽一郎君) 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長(岩田 利弘君) 上原議員の、指定管理施設「東員共同福祉施設」の減免について、お答えいたします。

東員共同福祉施設は、地方自治法第244条の2第3項の規定により、指定管理者制度を導入しており、平成22年度から平成24年度までの3年間、東員町商工会が指定管理者となっております。

「今年度から東員共同福祉施設の減免制度が適用されない」というご指摘について、指定管理者の商工会に確認したところ、今年度から、減免の対象を「指定管理者及び町が設置する機関が使用するとき」と定められており、社会福祉法人「東員町社会福祉協議会」などの団体には減免制度を適用しない考えであるということでした。

しかしながら、町が指定管理者に支払う指定管理料の算定は、従来、町が実施していた減免措置が引き続き実施されるという前提条件のもと、3年間の債務負担行為が設定されておりますことから、商工会に対しまして、平成24年度までの指定期間においては、従来町が定めていた減免基準を準用し、途中で変更しないこと、また、指定管理者で判断が難しいときは、事前に町へ協議をするよう説明し、指導を行ったところでございます。

ただし、減免措置は、場合によっては指定管理者の収入が減少して、指定管理料の増額という形ではね返り、指定管理者制度を導入した目的にそぐわない事態を招く恐れもあるため、運用に当たっては過去の利用実績も考慮して慎重に行うよう、あわせて指導いたしましたので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

3年間の契約の平成24年度までは実施するように指導したということでしたので、安心しました。

実は私としましては、商工会の事務局へ行った時に、さっき言われたように、減免をすれば収入が減るから経営が成り立っていない、というような感じのことをチラッと聞きました。そしたら今まで町がとってないということは、会場を使っているのに減免でお金をもらっていないということは、町が出しているのと一緒だから、もしだめでしたら、町が払ってでもやっていただけないかなという気でしたんですけど、実施するように指導されると。条例も一生懸命何回も読んだんですけど、きちっとそこにはうたってありますので、今の回答で指導してください。

よろしく申し上げます。

3点目のエコタウン構想について、町長に伺います。

町長の選挙公約のナンバー10のエコタウン構想にある家庭用の生ごみ処理機的全戸配布ですが、もしこれが実施できるとして、処理機の維持年数、何年もつかということなんですけど、維持年数を何年と考えていますか。また、この構想は桑名広域清掃事業組合に加入したままなのか、脱退を考えてのことですか。

よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 上原議員のエコタウン構想についてのご質問に、お答えをさせていただきます。

昨年度、本町のごみ処理にかかった費用は約4億円で、非常に大きい金額となっております。

ごみのうちで大きな割合を占めているのは可燃ごみでございます。紙類につきましては、自治会をはじめ、各地域の資源ごみ収集体の皆さんの熱心なお取り組みのおかげでリサイクルが進んできましたが、生ごみの減量につきましては、町で生

ごみ処理機の購入補助を行ったり、町内のNPO法人に、生ごみの堆肥化事業を委託したりしておりますが、決め手に欠けるのが現状でございます。

「エコタウン構想」は、焼却ごみを極力減らして、将来的にごみ処理にかかる費用を節約することを目的としております。その方法につきましては、私の選挙中、あるいは選挙後に、町民の皆様からいろいろなご意見をいただきました。それで、より効率的な方法を考えてまいりたい、こう考えております。

また、ご家庭への生ごみ処理機の件ですが、今後、さまざまな機器で検証を実施する中で、減量効果が見込め、簡単な構造で安価な処理機を計画的に配布したいということを考えております。その検討を行っております。

なお、一般的な家電製品の生ごみ処理機の耐用年数は7年と聞いております。

いずれにいたしましても、ごみの減量対策は、町民の皆様お一人お一人のご理解、ご協力、そして何よりも「ごみを減らそう」という強い意識を持っていただきますことが第一であると考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

次に、桑名広域清掃事業組合についてのお尋ねでございますが、組合におきましては、県が「RDF焼却・発電事業」を、平成32年度をもって終了することを受け、平成33年度以降のごみ処理のあり方について、今年度より検討作業を開始いたしております。

本町といたしましては、検討作業の内容をしっかりと把握していくとともに、東員町としての考え方、方向性について提示をいたしてまいります。

エコタウン構想に基づいて「新しいごみ処理基本計画」を策定していく中、これから迎える人口減少化社会も見据えたごみ処理のあり方についても検討をしております。

いずれにいたしましても、町民の皆様にとって最も経済的で、なおかつ効果が期待できる方法を見出したいと考えております。将来的には、ごみ処理にかかる経費の節減に相当貢献すると考えておりますので、ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ありがとうございます。

ごみ行政については、私も議員になるまで3期、クリーン作戦をやってきましたので、そういう中でいろんな話し合いもしてきましたし、何しろ結果的にごみを減らせれば、赤ちゃんから老人まで含めて1人1万5,000円のごみ処理のお金を本当に減らしていきたいというのが根本です。環境のためにもということ、そういう考え方からいろんなことを考えているんですけど、今の4億円ということも、今まで私も質問もしてきたんですけど、この4億円でも半分まではいかんけど、1億7,000万円か8,000万円か、そこら辺は施設の償還費で、現実毎年ごみ

を使っているのは2億円ちょっとなんです。そこら辺の中で考えないといけないということもあります。

私がなぜ生ごみ機の維持年数を聞いたのかというと、何しろ全世帯で2億5,000万円という金額も書いてありましたので、2億5,000万円皆さんに出して、強制でしたら自己負担はないというのが前提です。希望者だけやったら、今ある補助金でいいんですけど、強制ですと、個人負担は無理かなと考えました。私は普通維持年数は5～6年、よくて8年ぐらいかなと思ってましたので、今の7年はちょうど私の思っていた維持年数と一緒になんです。7年で、またそしたら2億5,000万円、全世帯向けに出すのかという、そこら辺の疑問です。7年に1回、全世帯にそうやって出していくのか。それで果たして節減になるのか。

それともう1つは、2億5,000万円を、東員町約7,500世帯としますので、7,500世帯で割りました。そしたら1台約3万3,000円ですね。さっき安価なものを取り入れてと言われましたけど、本当にそういうふうにできればいいんですけど、今、補助金は最高5万円です。半額ですので、7万円の物を買いましたら3万5,000円ですけど、最高額は5万円で、普通で1台が7万円から8万円すると言われてます。そしたら3万3,000円やったら、全世帯に配ろうと思ったら、個人負担が2～3万円要るわけです。こうやって聞きますと、町民の方の負担を考えますと、本当に賛同が得られるのかなということを考えましたので、そこら辺はどうですか。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 上原議員におかれましては、クリーン作戦とか、いろいろご活動をいただいて、町のためにご活躍いただいてまして、本当にありがとうございます。

今ご指摘のとおり、桑名広域に払うお金、これが大きいんです。しかも私も非常に理不尽だと思うんですが、今のRDFのごみ処理のやり方は、町民の皆さんも含めてみんなで頑張ってごみを減らすと、その処理コストが上がると、こういうことが一番理不尽なんです。要は固定費がありますから、ごみが減れば減るほど、トン当たりの処理コストは上がってくるんですね。

こんなばかな話はないので、平成32年までは桑名広域でやっていくということが、これがもう決められておりますので、その後のことを我々考えていけないといけない。広域でやっていくのか、単独でやっていくのかどうするのかということを考えなければいけないというふうなことを思っております。それは皆さんと、これからご議論を申し上げたいというふうなことを思っておりますので、ぜひとも上原議員におかれましても、いろいろご協力のほど、よろしくをお願いをしたいと思います。



生ごみ処理機が2万5,000円ということでございますけども、先ほども答弁の中で申し上げましたように、あのマニフェストを固定しているわけではございません。

1つだけ訂正させていただきますと、東員町7,500世帯ではなくて、約8,500世帯となります。それからいきますと、約3万円ぐらいで計算をしておったんですが、それについては先ほども申し上げましたように、いろんな方法をご提案もいただき、ご指摘もいただいております。

例えば一部で今やられております衣装ケースをお配りしたらどうだという話もあります。あるいは菌でかきまぜて減量していくというものもあります。あるいは乾燥させて水分を取っ払うというものもあります。ほかの方法も、もっと簡単な構造のもののご指摘もあります。これは先ほども申し上げましたように、今から、できましたら町民の皆さんと一緒に検討をしてみたいというふうなことを思っております。

希望者だけお配りしたらどうかというご指摘もありましたけども、希望者だけありましたら今と同じ現状でありまして、恐らく減量は進んでいかないだろうというふうなことを考えておりまして、もしこれに取り組むなら、全町民の方、皆さんと一緒に取り組んでいただかなければ、ごみの減量化は進まないということを考えております。ですから町民の方、皆さんが一致団結してごみを減らして、ごみ処理のコストを減らすんだという意識を持っていただいて、一緒になって、ぜひともご協力いただきながら、ごみ処理のコストをみんなで減らしていきたい、こういうふうに考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） ごみ減量のごみ処理機だけではなくて、いろんなことが今出されましたので、まだまだ今から考えることだと思いますけど、私としては処理機が前面に出てましたので、もしそれをやった場合、7年で、もう一度また新しいものをと、その時点で違うことを考えるのか、そこら辺の考え方はどうですか。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 方法としましては、実は一番安上がりに行けると思うのは衣装ケースなんです。家庭に置いていただいて、1カ月ぐらいで取りかえるとするならば、衣装ケースは8,500世帯プラス3割ぐらい、取りかえに必要な物も余分に買ったとして、1億円弱ぐらいでできると思います。それを全戸配布して取りかえに回るという形が一番安上がりかなとは思いますが、家庭を守っていただく主婦の皆さんに、いろいろ聞いてみないとわからない。やはり取り組みやすい、取り組みにくいというのはありますので、そういう形で皆さんに聞いてみないとわからないということがございますので、いろいろな方法を提示させてい

ただいて、そして皆さんからもご意見をいただきながら、一緒になって、どの方法が一番いいんだと。

例えば2億5,000万円よりもうんと安くすむもの、もちろん考えていきたいと思えますし、そういう方法を取っていききたいと思ってます。

さっき答弁漏れしましたけども、全戸配布させていただくお金というか、資金は、全額町のほうで持たせていただく。将来コストを下げるための投資だというふうにお考えいただきたいと思えます。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） 今、全額ということを知りましたので、全額無料となると、機械によっては2億5,000万円でおさまらないということを確認しました。そこら辺では、今いろんなことを考えている途中ということで、これ以上は申しませんが、維持年数7年という見通しもありましたので、それだったら私としては昨年、全議員と担当の課長と係長だったか、ご一緒させていただいて、甲賀市の水口テクノスの見学に行ってきました。そこで資料をもらってきたんですけど、もし民間委託をする場合に、つくるのは東員町でできても、民間委託するときの、軌道に乗ればシルバーなんかもやってくれるかなというところもあるんですけど、そこら辺の見通しが、私としては自分がそういう能力がないものでわからないんですけど。

でもお金の計算とか後のことで、引き受けてくれるところさえあったら、建設費は2億円ぐらいで、あとは毎年維持していく今の収集のこと全部、それが1年で8,800万円ぐらいで、建設の時は約2億円あれば建設できるということで、今は広域で施設のお金が1億9,000万円ぐらいあるんですけど、あとの2億円ちょっとがどれだけ減るかというところでは、まだちょっとあれですけど、最初のうちはいくら可燃ごみが減っても、それだけ減らんかもわからない。あちらへ両方かけもちしている間は。だけどそうじゃなかったら、そこら辺は本当に見てほしいな。具体的に計算もしてほしいなと思えます。だって2億円で建設できて、これが7年とか8年でなくて、何年ということは聞いてないですけど、本当に簡単なやり方でできていましたので、そこら辺、また検討していただきたいと思えます。

もう1つは今の話で、これは私だって思ってますので、平成32年までRDFがある間はやるということ。そしてその後は離脱する。一応検討委員会は立ち上げたということは報告で聞いてますけど、その経過報告も後で聞きたいんですけど、今の町長の話では離脱するかどうか、まだ検討するような感じでしたので、もしそうでしたら、大型をつくって、また莫大な施設費、120億円ということを知りましたので、今、広域で考えている施設の建設費は120億円と聞いてますので、そうじゃなくて、堆肥化して、もっと小さいのであれば10億円いかない、これは前も少し話をさせていただいたんですけど、埼玉県大井町では最初は60億円から70

億円の焼却炉をつくろうと思っていた。ただごみの減量をして、たったの8億2,000万円で小型の焼却炉をつくって、それでちゃんと堆肥化と同時に動かしているという実績もありますので、そこら辺で調べてもらって、離脱できなかつたら、これはできないんですけど、そういう気がありましたら、そういう検討もよろしく、東員町の道を探ってください。

もう1つは離脱しないときのことで、検討委員会発足ということを知りましたので、その経過、わかっている分だけでも教えてください。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 今、桑名広域を離脱するかしないかということをございますけれども、先ほども申し上げましたように、要は検討が始まったばかりで、後の質問もございましたけど、経過をと言われましても、まだ経過が始まってませんので、それはお許しをいただきたいと思うんですが。

私の考え方としましては、皆さんで燃えるごみをなくしましょうと。燃えるごみの一番大きなものが生ごみなんです。その次が紙のごみなんです。紙のごみにつきましては、雑紙も含めまして、民間業者に、それを持っていってもらおうという仕組みが今できつつありますので、紙のごみはもう町が処理しなくてもなくなる。そして生ごみを何とかして、ごみではなくて土へ返すということを考えてあげれば、生ごみがなくなるわけですね。

生ごみと紙のごみがなくなれば、実は焼却ごみの90数パーセントがなくなります。ということは、東員町の考え方を進めていく中で、ほかの桑名市とかいなべ市で共同歩調がとれるのであるならば、当然ごみが減りますから、桑名広域でそのまま続けていって、ぐっと小さなものをつくっていけばいいというふうなことを思うんですが、共同歩調がとれない、東員町はごみがぐっと減らせるけど、そのほかはそうではないよといった場合は、やはり東員町はどうするのかということを考えていかなければならないということをお願いしたことでございまして、桑名広域が残るとか離脱するとかいう議論を今から始めていくということでございますので、東員町といたしましては、他市にも、極力ごみをみんなで減量しようよという呼びかけをしてまいりたいというふうに考えております。

議長（山本 陽一郎君） 上原議員。

1番（上原 君代君） もっともなことでございました。本当にそう思います。

広域で120億円、もっと小さいので、ちゃんとそうやってできれば、私は一緒にやりたくないという意味で言っているのではないです。大型のもので、ごみを減らせば、経費が余計割高になるというのはやめてほしいだけで、仲良くやっていければ一番いいですので、そう思います。

本当にごみ減量の考え方については、私も新町長と同じく思っておりますので、地球温暖化、本当に大切なことです。しかも町民1人当たり1万5,000円払っております。それを節減して、福祉とか社会保障に回して欲しいと思います。エコタウン構想の中でも考えていただき、桑名広域の中でも、よりよい方向にして欲しいと思います。

ありがとうございました。これで終わります。